

▶本ステップ表の基本コンセプト

- ①地域の方にも分かりやすいこと（どの先生も説明できる）
- ②「めざす子ども像」と「具体的な手立て」が連動していること

「安倍川プライド」プロジェクトマップ

安倍川地区で育成をめざす子ども像

**安倍川プライド**  
 安倍川地区に誇りをもつ子  
 仲間と共にながらぶ子  
 前向きに取り組む子

\*生活科・総合的な学習は、安倍川中学校区の軸となる取組となるため、安倍川プライドの順に対応して記載してあります。

R8.4.1 安倍川中グループ(安倍川中・駒形小・田町小)

キャリアプラン (中3の姿) ※安倍川プライドと共に意識

- ・論理の展開を考え、構成を工夫して話したり書いたりして適切な方法で説明できる。(基礎的・基本的な学力)
- ・各活動場面で自分を発揮し活かすことができる。(自己有用感・達成感)
- ・学校や地域社会の課題について具体的な方策を考えて仲間と共に活動に参画できる。(人間関係調整力)
- ・学習態度、挨拶、言葉遣い、整頓、時間のマナーやルールを守り、お互い気持ちよく生活する集団づくりができる。(安定した生活集団)
- ・自分の身体の特徴を知り、バランスの良い食事、継続的な運動、十分な睡眠ができる。(体力づくり)
- ・計画的に自らの課題と活動を設定し、適切な調査と方法で自分の考えを表現できる。(主体的に取り組む力)
- ・自分の力を地域のために役立てることを考えて行動する。(愛郷心)
- ・周囲の状況や見通しを考慮して自他のよさを活かして行動できる。(社会性・協調性)

**学校経営の指針**  
 第4次静岡市総合計画  
 第3期静岡市教育振興基本計画  
 静岡型小中一貫教育推進方針

**学校教育目標**  
 未来(あす)をきりひらく子

※各部「めざす子ども像」を育成するための「具体的な手立て」を設定する。  
 ※CS支援内容・支援者リスト等を作成

**具体的な手立て**  
**【学習部】**

- ▶「課題の設定」
- ▶「情報の収集」
- ▶「整理分析」
- ▶「まとめ」「表現」
- ▶「振り返り」

上記の思考の流れを意識し、子どもの主体的な学びを支える授業を行う。

CS支援

- ①読書・読み聞かせボランティア(おすすめ本の紹介)
- ②技能教科のサポート(家庭科・体育・音楽等)
- ③授業ボランティア(外国にルーツのある子の支援)
- ④学習のサポート

～地域の方から広く支援を募っていく～

**具体的な手立て**  
**【生活科・総合的な学習の時間部】**

- ▶地域の財(人・もの・こと)の積極的活用  
 ・安倍川花火大会、安倍川もち、安倍川橋、薩摩土手、各種職人さん、職場体験などの活用
- ▶キャリア形成(社会的・職業的自立)のための資質・能力を育成  
 ・探究的活動にて「課題設定」「情報の収集」「情報の整理分析」「分析のまとめ」「表現」のサイクルを大切に、活動を行う。

CS支援

- ①地域人材活用リストを地域の方にも協力して頂きながら作成し、活用していく。安倍川花火大会、安倍川餅、安倍川橋などを学ぶ際に、地域の財(人)を積極的に活用する。
- ②地域の課題、現代的な課題をテーマとしたエリアミーティング、ディベートなどの活動を充実させ、コミュニケーション力の育成を図る。

**学習 (後期ステップの姿)**  
 ●課題に対し、解決方法を自分で考え、取り組むことができる。  
 ●自分の学びを振り返り、新たな課題を見つけ、解決しようと取り組むことができる。

**学習 (中期ステップの姿)**  
 ●学習の課題が分かり、解決方法を選択して取り組むことができる。

**学習 (前期ステップの姿)**  
 ●学習する課題が分かり、自分から取り組むことができる。

**生活科・総合的な学習の時間 (後期ステップの姿)**  
 ●安倍川地区の魅力に誇りを感じ、自分ができることを考え、地域活性のために協力することができる。  
 ●自分の立場や考えを明確にし、相手と納得できるように伝えることができる。学校や地域社会の課題を解決するために、他者と協働的に活動することができる。  
 ●安倍川地区の人、もの、こととの関わりの中で、実社会・実生活に結び付く課題を設定し、立てた計画を修正したり付け加えたりしながら粘り強く探究することができる。

**生活科・総合的な学習の時間 (中期ステップの姿)**  
 ●安倍川地区の良さや課題に気づき、地域に積極的に関わろうとする意欲をもつことができる。  
 ●資料の使い方を工夫し、相手に分かりやすく伝えることができる。相手の意図を感じながら聞き、自分の考えを深めるためにやりとりをすることができる。  
 ●安倍川地区の人、もの、こととの関わりの中で実生活に結び付く課題を設定し、計画的に追求することができる。

**生活科・総合的な学習の時間 (前期ステップの姿)**  
 ●観察や深検をしに安倍川地区に出かけたり、地域の人を招いて学んだりして、学校、地域の様子を幅広く知り、安倍川地区の魅力に気付くことができる。  
 ●資料を使いながら相手に伝えることができる。また、相手の話を聞くをもって聞くことができる。  
 ●安倍川地区の人、もの、ことと関わりの中で興味をもったことを自分なりに調べることができる。

**特活 (後期ステップの姿)**  
 ●各活動場面に合わせて自分の良さを発揮し、伸ばすことができる。  
 ●自分たちで行事・活動・課題を見つつけたり、企画を考えたり、全校に発信したりすることができる。

**特活 (中期ステップの姿)**  
 ●自分の良さを広げたり、友達の良さを発見したりすることができる。  
 ●決められた行事・活動・課題の中で企画を考え、学級や異学年に発信することができる。

**特活 (前期ステップの姿)**  
 ●他者から自分の良さを見つけ、認めてもらう。友達同士で良さを伝え合う。  
 ●行事や活動に対し積極的に取り組むことで興味・関心をもつことができる。

**生活・生徒指導 (後期ステップの姿)**  
 ●各活動場面で豊かな心を育み、自分を発揮し活かすことができる。  
 ●お互いが気持ちよく生活するために、学習態度、挨拶、言葉遣い、整頓、時間のマナーやルールを考え、行動することができる。  
 ●自分の身体の特徴を知り、バランスのよい食事、継続的な運動、十分な睡眠をとることができる。

**生活・生徒指導 (中期ステップの姿)**  
 ●各活動場面で健やかな心を育み、発揮できそうな自分の強みを知ることができる。  
 ●学習態度、挨拶、言葉遣い、整頓、時間のマナーやルールを守り、落ち着いて生活できる。  
 ●自ら早寝早起き、朝食をしっかり食べるることができる。

**生活・生徒指導 (前期ステップの姿)**  
 ●成功体験をより多く積み重ね、自信をもつことができる。  
 ●学習態度、挨拶、言葉遣い、整頓、時間のマナーやルールを守ろうとすることができる。  
 ●早寝早起きをし、朝食をしっかり食べて登校できる。

※「具体的な取組」の評価は、「めざす子ども像の育成」に関する効果検証を実施する。

**具体的な手立て**  
**【特別活動部】**

- ▶児童・生徒同士が協力し取り組む場の設定  
 ●人間関係調整力や自己有用感につながる  
 ・委員会活動/専門委員会  
 ・ペア活動やクラブ活動などの異学年交流
- ▶児童・生徒主体で企画・運営・発信する場の設定  
 ・委員会活動/専門委員会  
 ・代表委員会/生徒評議会  
 ・学級会など話し合いの場の充実

↓

- 校内にとどまらず、他校や地域にも働きかける意識をもたせる。  
 ・安倍川の日 ・小中合同あいさつ活動

CS支援

- ①地域に発信した行事への協力  
 ・あいさつ活動、清掃活動など
- ②学校内での活動への協力  
 ・授業やクラブ活動のゲストティーチャー

**具体的な手立て**  
**【生活・生徒指導部】**

- ▶自己有用感・達成感の充実  
 ・安倍川中「思いやりメッセージ」  
 ・田町小「ハートの木」・駒形小「認め合いの木」
- ▶社会性・協調性の育成  
 ・「学校のきまりを見直す活動」、「生活指導について扱う集会活動」の実施
- ▶3校共通  
 「地域防災訓練」参加・「Good Sleep 週間」実施  
 ・「拡大学校保健委員会」実施

CS支援

- ▶地域と学校・地域と地域のつながり  
 ・町内のお祭りや運動会、地域の防災訓練、自治会の清掃活動などの周知を行い、そこでお互いの顔を知り日頃のあいさつにつなげる。
- ▶地域と学校のルート明確化  
 ・民生委員会、自治会、社会福祉協議会等との連携の仕方を共有する。

**全てを支える特別支援教育** 【特別支援教育部】

**誰一人取り残さない学習環境 (UD)**  
 ▶UDの視点で整理された取組(授業・教室環境・人的環境)  
 ●「個別の支援リスト」や「3校共有ポータル」による共有  
 ●教員1人1人ができることから実践する

**9年間をつなぐ個別支援計画**  
 ▶分かりやすい・書きやすい・共有しやすい支援計画  
 ●「支援の積み上げ」から「支援慣れ(ルーティン化)」へ  
 ●保護者にも分かりやすい・共有しやすい内容へ

**通常学級と支援学級を結ぶ交流学習**  
 ▶どの子ども安心して取り組める交流学習  
 ●実践を積み上げ、交流の良さを明確にしてい  
 ●教員の指導力向上を「個別の支援」へつなげていく

CS支援

- ①授業ボランティアの継続・拡充  
 ・授業ボランティアを継続し、ボランティアの拡充を図ることで、どの子ども安心して学習に取り組むことができるようにする。(校外学習ボランティア・退職教職員の活用・地域の人材活用など)
- ②地域への情報発信  
 ・自治会を窓口、広くボランティアを募集する。
- ③ユニバーサルデザイン(誰にとっても学びやすい・わかりやすいデザイン)の取組や放課後子ども教室など、学校の取組について積極的に発信する。